



フランスのMVNO ～多様な企業が次々と新規参入～

🕒 記事のポイント

サマリー 他の欧州諸国に比べ普及率が低く、MVNOの参入も遅かったフランスの携帯電話市場であるが、2005年以降、通信事業者に加えメディア関連企業や流通小売業など、多様な企業が続々とMVNOとして新規参入している。MVNOの市場シェアはまだ小さいが、2006年第2四半期に限っていえば携帯電話事業者を上回る純増数を記録しており、市場活性化の原動力として今後の成長が期待されている。

主な登場者 ARCEP Orange SFR Bouygues Telecom M6 Mobile Tele2 France
NRJ Mobile Virgin Mobile France Ten Mobile

キーワード モバイル MVNO

地域 フランス

執筆者 KDDI総研 制度・政策調査室 服部 まや (xma-hattori@kddi.com)

1 フランス携帯電話市場の現状

1-1 市場の概観

ARCEPによれば^①(脚注)、フランスの携帯電話加入者数は2006年6月30日現在、4,907万(年間増加率8.1%)、人口普及率は81.3%である。このうちプリペイド加入者の割合は35.4%となっている。



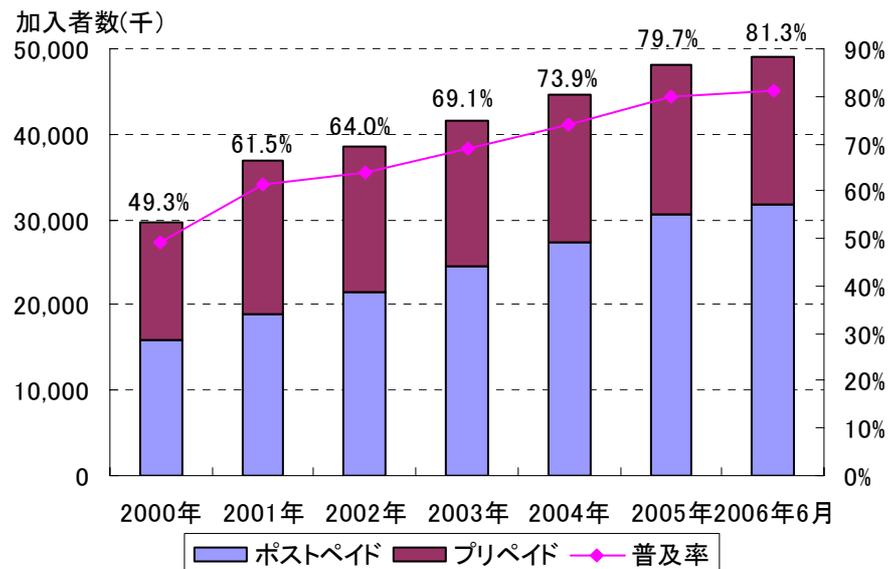
① (脚注)

フランスの規制機関ARCEP (Autorité de Régulation des Communications électroniques et des Postes : 電子通信郵便規制機関) の移動通信市場統計 "Le Suivi des Indicateurs Mobiles" (2006年6月) による。

フランスのMVNO
～多様な企業が次々と新規参入～

なお、これは海外県[○]（脚注）が含まれた数字であり、フランス本国（métropole）のみの加入者数では4,736万、人口普及率は80.9%となっている。フランスでは地域により普及率に大きく差があり、例えば、Ile-de-France（パリ周辺地域）では114.3%と100%を大きく上回っているが、東部のFranche-Comtéや中南部Auvergneなどの山岳地帯では60%に満たない。

【図表1】フランス携帯電話加入者数・普及率の推移



（ARCEP 2005年度年次報告書および移動通信統計（2006.6）に基づきKDDI総研作成）

フランスの携帯電話加入者数はドイツ、イタリア、英国に次いで欧州第4位であるが、普及率は2006年に入ってようやく80%を超えたところである。これはEU25カ国平均（91%：2005年10月）を下回って、西欧主要国の中でも最低レベルとなっている。これに対しイタリアや英国などではすでに100%を超えている（【図表2】）。



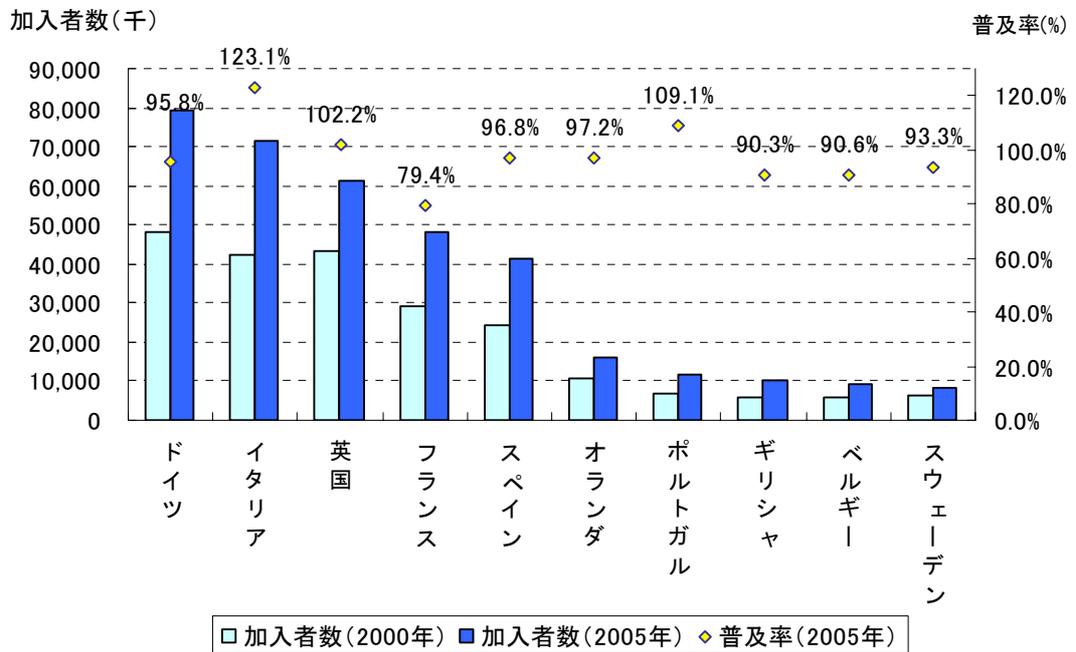
○（脚注）

フランスの海外県（DOM）はGuadeloupe、Guyane、Martinique、Réunionの4県あり、同時に地域圏としての位置付けもされている。全国の合計には、本国、海外県、さらに特別自治体であるMayotte と Saint Pierre et Miquelonにおける加入者数が含まれている。

フランスのMVNO
 ~多様な企業が次々と新規参入~

このようにフランスの携帯電話普及率が低い要因としては、次のようなフランス市場の特徴があげられている[◇](脚注)：①フランスの地理的特性(人口密度が低く地域格差が大きい、国土の約23%を山岳地帯が占める等)、②固定電話の普及率が高いこと、③ポストペイド加入者が6割以上となっており、1ユーザーが複数台の携帯電話を所有する割合が低いこと(欧州平均18%に対してフランスは6%)。プリペイド比率が高い国では1人で複数の携帯電話を所有していることも多く、普及率は高くなる傾向がある。

【図表2】 西欧諸国の携帯電話加入者数・普及率



(ITU "World Telecommunication/ICT Indicators" (2006.5) に基づきKDDI総研作成)

◇ (脚注)

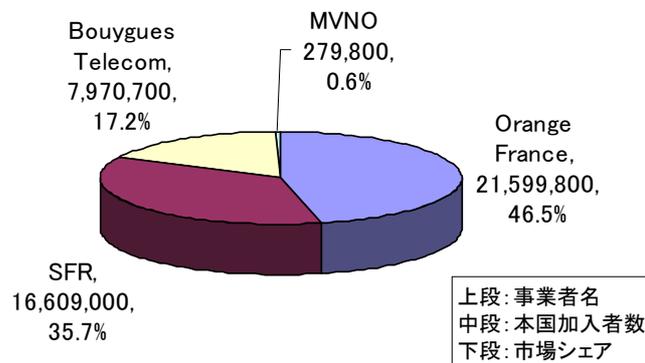
France Télécom "Document de référence 2005" による。

1-2 携帯電話事業者の概要

フランスの携帯電話事業者（MNO）は、Orange、SFR、Bouygues Telecomの3社である。3社とも2G（GSM）と3G（UMTS）の免許を保有しているが、現在3Gサービスを提供しているのはOrangeとSFRの2社である。Bouygues Telecomは2007年春に3G+でのサービス開始を予定している。

本国市場における3社のシェアは、2005年12月時点で、Orange：46.5%、SFR：35.7%、Bouygues Telecom：17.2%となっており^{○（脚注）}、上位2社で市場の80%以上を占めている。

【図表3】フランス携帯電話市場シェア（本国のみ：2005年12月末）



（ARCEP 2005年度年次報告書のデータに基づきKDDI総研作成）



○（脚注）

携帯電話事業者3社の市場シェアは2000年以降ほぼ同一で推移してきた。2005年12月1日、仏競争評議会（Le Conseil de la concurrence）は、3社が1997年～2003年の間に新規加入者数に関する情報交換を行い、また2000年～2002年の3年間にシェア固定化に関して合意があったとして、3社に総額5億3400万ユーロの罰金を科した。内訳は、Orange France: 2億5,600万ユーロ、SFR: 2億2,000万ユーロ、Bouygues Télécom: 5,800万ユーロ（出所：競争評議会 2005年12月1日付プレスリリース（www.conseil-concurrence.fr））。

【図表4】フランスの携帯電話事業者

事業者	Orange France	SFR	Bouygues Telecom
資本構成	France Télécom (FT) 100%	Vivendi Universal 56% Vodafone 44%	Bouygues 83% BNP Paribas 6.5% JCDecaux 10.5%
売上 (2005年) (百万ユーロ)	9,773	8,687	4,537
サービス開始 年月	GSM 1992.6 W-CDMA 2004.12	GSM 1993.4 W-CDMA 2004.11	GSM 1996.5 W-CDMA 2007予定
加入者数 (2006 年6月) (注1)	2,239万	1,741.5万	830.5万

(注1)：各事業者発表の海外県子会社を含む加入者数総計。なお、MVNOへの卸売はこれらの数字には含まれていない。

(各種資料に基づきKDDI総研作成)

2 市場の新たなプレイヤー：MVNOの動向

2-1 MVNOに対する規制の現状

フランスの規制当局ARCEPは、2005年4月14日、携帯電話市場における競争を活性化する原動力としてMVNO^④ (用語解説) を位置づけ、MVNOの市場参入を促進するために、携帯電話事業者に対してMVNOへのアクセス提供を義務付ける草案を欧州委員会に提出した。

しかし、2005年に入って、これまで消極的な姿勢を示していた携帯電話事業者とMVNOとの契約締結が相次いで発表されたこと等を受けて、1ヵ月後の2005年5月30日、ARCEPはこの草案を撤回し、当面、市場動向を注視していくこととした。ARCEPは、市場の発展を見極め、遅くとも2006年末までに新たな提案を欧州委員会に通知することになっている。その間ARCEPは、欧州委員会に対して四半期ごとに市場の



④ (用語解説) MVNO

MVNO (Mobile Virtual Network Operator : 「仮想移動通信事業者」) とは、自らは周波数免許を取得せずに免許取得事業者のネットワークを利用して独自のブランドで携帯電話サービスを提供する事業者。ネットワークを提供する携帯電話事業者 (「ホストMNO」) への依存度合いによって運用形態が異なる (KDDI総研R&A 2005年10月号「参入相次ぐMVNO～欧米における最新動向～」参照)。

フランスのMVNO
～多様な企業が次々と新規参入～

競争状況に関する報告を行うこととしている^④（脚注）。

従って、現状ではフランス携帯電話市場においてMVNOに関する規制はペンディングとなっており、MVNO契約は携帯電話事業者とMVNO間の交渉に任されている。

2-2 相次ぐMVNOの新規参入

フランスのMVNOとして最初に登場したのはTransatelで、2001年末にBouygues Telecomと契約を結んでいるが、MVNOが本格的に参入開始したのは2004年になってからである。当初、携帯電話事業者はMVNOとの契約締結に消極的であり、フランスのMVNO数は2004年末時点で4社（Transatel、Debitel France、Breizh Mobile、Universal Mobile）に過ぎなかった。

規制機関がMVNO導入に関して積極的な姿勢を示したこともあり、2005年以降、携帯電話事業者のOrangeとSFRは次々とMVNOと契約を締結し、MVNOへの参入企業が相次いだ。

2005年2月にFutur Telecom、6月にはM6 Mobile、Tele2 France、Neuf Cegetelの3社が参入、さらに11月にNRJ Mobileがサービスを開始した。2006年に入って新規参入の動きはさらに加速しており、7月までに6社がサービスを開始し、さらに2社が11月までにサービス開始を予定している（【図表5】参照）。このほか数社が年内に参入するという報道もあり、MVNOの新規参入ラッシュが続いている。

【図表5】フランスのMVNO一覧（サービス開始順：2006年10月現在）

MVNO (注1)	親会社 <本業>	ホスト MNO	サービス 開始年月	加入者数 (2006.6)	ターゲット ユーザー
Transatel	— <MVNE/MVNO>	Bouygues Telecom	2002年1月	3万 (MVNE 含む)	国際ローミングサ ービス利用者 (個 人・中小企業)
Debitel France	Debitel (独) <再販事業者>	SFR	2004年7月	n/a	若年層 ローエンド
Breizh Mobile (注2)	The Carphone Warehouse (英) <携帯電話販売>	Orange	2004年7月	8万	地域限定(ブルタ ーニュ地方) ローエンド
Universal Mobile*	Universal Music <レコード会社>	Bouygues Telecom	2004年8月	50万	若年層 (11-25歳)



④（脚注）

草案提出から撤回までの詳しい経緯については、KDDI総研R&A 2005年8月号「フランス、MVNOへのアクセス提供義務を規定したSMP認定案を撤回（卸売公衆移動体発信およびアクセス市場）」を参照。

フランスの MVNO
 ～多様な企業が次々と新規参入～

Futur Telecom	Futur Telecom <再販事業者>	SFR	2005年2月	n/a	中小企業
M6 Mobile*	M6 <TV局>	Orange	2005年6月	42万	若年層 (15～25歳)
Tele2 France	Tele2 (スウェーデン) <通信事業者>	Orange	2005年6月	30万	ローエンド
Neuf Cegetel	Neuf Cegetel <通信事業者>	SFR	2005年6月	n/a	法人
NRJ Mobile	NRJ <ラジオ局>	SFR	2005年11月	20万	若年層
Virgin Mobile France (注2)	Virgin Group (英) / Carphone Warehouse <小売/携帯電話販売>	Orange	2006年4月	n/a	若年層
Neuf Mobile	Neuf Cegetel <通信事業者>	SFR	2006年4月	n/a	個人
Coriolis	Coriolis Telecom <通信事業者>	SFR	2006年5月	n/a	法人/個人 (ハイエンド)
TF1 Mobile*	TF1 <TV局>	Bouygues Telecom	2006年5月	n/a	若年層
Ten Mobile	CGBC <MVNO>	Orange	2006年6月	n/a	若年層 モバイルインターネット ネット利用者
Fnac Mobile*	Fnac <小売>	Orange	2006年7月	n/a	若年層
A-Mobile	Auchan <小売>	SFR	2006年10月	n/a	ローエンド 自社スーパー顧客
Carrefour Mobile	Carrefour <小売>	Orange	2006年11月 (予定)	n/a	ローエンド 自社スーパー顧客

(注1) : *印の事業者はARCEPへの届出ではMVNO契約ではなくブランドライセンス契約。ライセンス契約はMNOとの共同ブランディングとなり、MNOのチャネルでもサービスが販売される。またMVNO契約事業者の加入者はMNOの卸売加入者としてカウントされるが、ブランドライセンス契約事業者のユーザーはMNOの小売加入者としてカウントされる。

(注2) : ホストMNOとの契約事業者名はOmer Telecom (Carphone Warehouse子会社) で、Breizh MobileおよびVirgin Mobileはサービスブランド。

(各種資料によりKDDI総研作成)

3 主要な新規MVNOの概要

2005年以降、フランス市場に新規参入した事業者では、メディア／コンテンツ関係企業が独自のコンテンツをセールスポイントに、若年層をターゲットユーザーとして参入しているのが目立つ。これらのMVNOは強力なブランドを持ち、またMNOとの共同ブランディング等によりユーザー数を拡大している。

そのほか、法人ユーザー向けのMVNOを提供するMVNOやニッチ市場にターゲットを定めたMVNOも登場している。2006年には小売流通事業者の参入も始まっている。

新規参入MVNOのうち、特徴的な事業者を以下に紹介する。

3-1 M6 Mobile (www.m6mobile.fr)



■加入者数

2005年以降、新規に参入したMVNOの中で最も多くの加入者を獲得しているのはM6 Mobileである。2005年6月にサービスを開始した同社の加入者数は2005年10月に10万、12月に20万、2006年2月に30万と計画を上回るペースで順調に増加し、サービス開始1年後の2006年6月初めには42万に達した。その2ヵ月後の2006年8月には53.5万となり、さらに10月には60万を超えている。

■主要株主・資本関係

親会社のM6グループはフランスTV局「M6」のほか、子会社のM6 Webを通じて、コンテンツサービスなどのマルチメディア事業を展開している。

■ホストNW

2005年2月15日に携帯電話事業者Orangeとパートナーシップ契約を締結し、6月9日に「M6 Mobile by Orange」のブランド名で携帯電話サービスを開始した。当初はM6とOrangeの共同ブランディングによるサービス提供であるが、将来的にはMVNO契約に移行する計画だという。

従来のGSM網に加え2006年3月からは3Gも利用可能になっている。

■ターゲットユーザー・戦略

M6 Mobileのターゲットユーザーは15～25歳のリッチな若年層である。M6ブランドのコンテンツが付加価値となっており、M6 Mobileのユーザー専用ポータルから多様なマルチメディアコンテンツ（M6のニュース、音楽、TV、ゲームなど）が提供されている。

M6 Mobileへの加入はM6 Mobileポータルからのオンライン販売と電話申込に加えて、Orangeのポータルサイトと全国に展開する2万以上のOrangeの販売チャネルも利用できる。両社の強力なブランド力とマーケティング力が強みである。

■ 料金・サービス等 (2006年10月現在)

- ・ M6 Mobileの料金は通話料が月額料金を超えると発信が自動的にブロックされるタイプのプランである。OrangeとM6 Mobile携帯電話宛の通話に限定されるが、週末と平日夜間（プラン①と②は週末のみ）は通話料が無料となるのが特徴となっている。料金プランは以下のとおり。
 - ①月額19.90ユーロ（国内通話1時間または200SMS相当）
 - ②月額23.90ユーロ（国内通話1時間20分または240SMS相当）
 - ③月額26.90ユーロ（国内通話1時間40分または270SMS相当）
 - ④月額29.90ユーロ（国内通話2時間または300SMS相当）
 （①～④とも24ヵ月契約の料金）
- ・ なお、発信がブロックされても受信は可能で、通話料をリチャージすれば引き続き発信できる。
- ・ 国内通話料はプランに応じて0.246ユーロ/分～0.33ユーロ/分。また、各種のマルチメディアオプション（月額6～12ユーロ）がある。
- ・ 同社はユーザーの更なる拡大を図るため、2006年10月に料金の改定を行った。新しい料金では、プラン数を従来の2種類から4種類に増やすとともに、各プランに含まれる無料通話分数を多くした。また、夜間・週末の通話料無料（Orange/M6 Mobileユーザー宛通話に限定）が適用される時間帯を22時～翌朝8時まで延長した（これまでは22時～24時）。
- ・ さらに従来は契約型（ポストペイド）プランだけを提供していたが、2006年11月からプリペイドカードの販売も予定している。

3-2 Tele2 France (www.tele2.fr)



■ 加入者数

Tele2 Mobileのユーザー数は2006年3月末:19万、6月末:30万となっており、MVNO加入者数（ARCEP統計）の40%以上を占めている。

■ 主要株主・資本関係

Tele2 France はスウェーデンの総合通信事業者Tele2のフランス子会社である。Tele2は本国スウェーデンのほか、欧州各国でMNOまたはMVNOとして事業展開している。

フランスにおいては、1998年に固定電話サービス、2002年にインターネットサービスを開始したのに続いて、2005年6月17日に携帯電話サービス「Tele2 Mobile」を開始した。

なお、Tele2 Franceの固定・インターネット事業については、2006年10月にSFR（シェア第2位の携帯電話事業者）へ売却されることが決まった。

■ ホストNW

2005年4月14日にOrangeとMVNO契約を締結している。

■ ターゲットユーザー・戦略

Tele2 Franceは、ローエンドユーザーをターゲットに、安価でシンプルな料金設定を戦略としている。

サービス加入はオンラインサインアップまたは電話受付となっている。

■ 料金・サービス等

(2006年10月現在)

- ・ 料金プラン：①月額14ユーロ（無料通話30分）、②17.5ユーロ（1時間）、③24.9ユーロ（2時間）、④38ユーロ（4時間）の4種類。
- ・ 24ヵ月契約となっており、携帯電話（7機種）が無料で提供される。
- ・ 超過通話料は0.35ユーロ/分（4時間のプランは0.3ユーロ/分）。SMSは1通あたり、0.09ユーロ。

3-3 NRJ Mobile (www.nrjmobile.fr)

■ 加入者数

2005年11月のサービス開始後、4ヵ月で10万加入を獲得、2006年3月末：12.5万、2006年6月末：20万、8月末：22.5万と加入者数を伸ばしており、MVNO加入者数（ARCEP統計）の約30%以上となっている。

■ 主要株主・資本関係

NRJグループが主要株主（90%）である。NRJグループはフランスの音楽専門チャンネルNRJなど複数のラジオ局を持ち、他の欧州諸国にも進出している。

■ ホストNW

2005年2月にSFRとMVNO契約（2G/3G）を締結している。

■ ターゲットユーザー・戦略

15～25歳の若年層をターゲットに、音楽コンテンツに重点を置いている（NRJのラジオ放送は若者に人気がある）。

販売チャネルは、Darty、Internityなどの販売店やCarrefourなどのスーパーマーケットのほか、NRJ Mobileのウェブサイト上でもオンラインで受け付けている。

なお、NRJ MobileはベルギーでもMVNOサービスを提供開始している（ホストNWはBase、MVNEはTransatel）。

■ 料金・サービス等

（2006年10月現在）

- ・ シンプルな料金設定を売りにしており、SIMカードのみ（15ユーロ）と携帯電話+SIMカードのパッケージ（49ユーロから）の2種類を販売している。それぞれ、6ユーロ分の通話料が含まれるほか、1通話（1分以上）につきSMS1通が無料で付く。
- ・ 2006年10月に料金の見直しを行い、通話料金を18%引き下げて1分あたり0.45ユーロとした（時間帯制限なし）。SMSは従来どおり1通あたり0.1ユーロ（NRJユーザーへは0.05ユーロ）。
- ・ 同時に音楽関連サービスの充実をはかり、プリペイドカードで20ユーロ以上をリチャージするごとにヒット曲を1曲無料でダウンロードできるサービスを提供するほか、コンサートのチケットが抽選で当たるサービスなども提供する。
- ・ プリペイドカードのリチャージについても見直しを行い、「クラシック（チャージ金額は5、10、15、25、35、65ユーロの6種類）」、「メガフォン（チャージ金額は20、30、40、50ユーロの4種類）」を設定し、10種類のリチャージ方法から選べるようにした。「メガフォン」タイプではリチャージ金額に応じて通話料の割引がある。また従来はプリペイドカードの利用期限を設けていなかったが、新しい料金ではリチャージ金額に応じて7日～4ヶ月の利用期限を設定した。
- ・ さらに一定額に達すると通話をブロックするタイプの料金プランも開始した。
- ・ 11月からは電子マネー機能を持たせた携帯電話の導入も予定している。

3-4 Virgin Mobile France (www.virginmobile.fr)



■ 加入者数

2006年4月にサービス開始したところであり、加入者数はまだ発表されていない。

■ 主要株主・資本関係

英国のVirgin Group[☞] (脚注) と Carphone Warehouseとの折半出資による合弁会社。

Virgin Mobileは世界最大のMVNOであり、またCarphone Warehouseは英国の大手携帯電話ディストリビューターで、英国でもMVNO「Fresh」を提供している。

■ ホストNW

OrangeのGSM網を利用している。なお、MVNO契約の事業者名はOmer Telecomとなっているが、これは合弁相手のCarphone WarehouseがすでにOmer TelecomとしてOrangeとのMVNO契約を締結しており（サービスブランドはBreizh Mobile）、その契約条件を書き換える形となったためである。

■ ターゲットユーザー・戦略

18～30歳の若年層をターゲットとしている。

販売チャンネルは、VIRGIN MEGASTOREおよびThe Phone House（Carphone Warehouseのフランス子会社）の販売網、携帯電話販売店に加え、オンラインでも加入を受け付けている。

■ 料金・サービス等

(2006年10月現在)

- ・ 料金プラン：通話無制限プランとSMS無制限プランの2種類
 - 通話無制限プラン：Virgin Mobile加入者と固定電話宛通話が無料
(金曜12時～月曜12時まで)
 - SMS無制限プラン：全ての事業者宛SMS通信料が無料
(時間帯制限なし)
 - 月額基本料(無料通話分数)：21ユーロ(40分)、26ユーロ(75分)、
32ユーロ(100分)、42ユーロ(155分)
 - 超過通話料：0.35ユーロ/分
 - 12ヵ月契約



☞ (脚注)

2006年4月、Virgin Mobileは米ケーブル事業者のNTLに買収された。

- ・ 通話料が一定金額に達すると発信通話がブロックされるプラン
 - 通話料のリチャージは常時可能
 - 月額基本料（無料通話分数）：15ユーロ（40分または150SMS）、20ユーロ（75分または200SMS）、25ユーロ（100分または250SMS）
 - 12ヵ月契約
- ・ プリペイドカード：
 - SIMカード（15ユーロ）またはSIMカード+携帯電話のパッケージ（それぞれ5ユーロ分の通話料をサービス）
 - リチャージは、10、20、30、40ユーロ。通話料は0.42ユーロ/分（3ヵ月間有効）または0.27ユーロ/分（30日間有効/20ユーロの場合）
- ・ 12ヵ月契約の料金プランに加入すると端末価格の割引がある（機種により1ユーロから）。

3-5 Ten Mobile (www.ten-mobile.com)



■ 加入者数

2006年6月にサービス開始したところであり、加入者数はまだ発表されていない。

■ 主要株主・資本関係

CGBC（Tele2 Franceの元社長Jean-Louis Constanzaが中心となって設立。設立メンバーConstanza, Garig, Coilhac, Beauchant.の頭文字をとって名付けた）。Axa Private Equityが出資。

■ ホストNW

Orangeのネットワークを利用している。

■ ターゲットユーザー・戦略

若年層、特にモバイルインターネット利用ユーザーをターゲットとしている。モバイルインターネットにフォーカスしている点の特徴である。

■ 料金・サービス等

（2006年10月現在）

- ・ モバイルインターネットオプション：
 - <Mail（50Koまでのメール:3アドレスまで無制限）>：5ユーロ/月
 - <Windows Live Messenger無制限>：5ユーロ/月
 - <メール+Windows Live Messenger無制限>：8ユーロ/月

<Mail Pro (3Moまでのメール:3アドレスまで無制限) > : 15ユーロ/月

<Mail Pro+Windows Live Messenger無制限> : 17ユーロ/月

- ・ 料金プラン：月額13ユーロ（無料通話30分）、22ユーロ（1時間）、29ユーロ（2時間）、47ユーロ（4時間）、63ユーロ（6時間）
超過通話料は0.32ユーロ/分（30分のプランは0.36ユーロ/分）
- ・ 端末：Sony Ericsson K750i（プロモーションパッケージでは無料提供）、Nokia 6681（79ユーロから）、Qtek 8500（129ユーロから）
- ・ 加入受付はウェブサイトと電話による。
- ・ なお、ten mobileは11月6日から料金改定を行い、Windows Live Messengerを無料で提供する。また、ユーザーの利用パターンに合わせた3つのパッケージ（「LovePower」、「UrbanPower」、「ProPower」）を提供開始し、端末の種類も増やす。新料金プランでは30分のプランのみ月額15ユーロとなるが他のプランには変更はない。
新しく提供されるどのパッケージもWindows Live Messenger は無料で提供され、ユーザーは、料金プラン、付加各種のサービスや端末を選択してパーソナライズすることができる。

4 MVNO参入のインパクト～2006年はMVNOが市場を牽引

上記のように2005年以降続々と市場参入したMVNOだが、加入者数に関してはそれほど急激な増加は見られなかった。ARCEPは2005年第2四半期からMVNO加入者についての統計も発表しているが、これによると本国市場に占めるMVNOのシェアは2005年12月末の時点で0.6%、加入者数は約28万に過ぎなかった。

ところが2006年に入りMVNOの健闘が目立っている。MVNO加入者数は2006年3月末で約43万、6月末には約70万となり、市場シェアはまだ1.5%程度と少ないものの、1年間で約17倍に増加している。特に2006年4月～6月の3ヵ月間の加入者純増数をみると、MNOの純増数が18.4万であるのに対してMVNO純増数は26.9万で、MVNOがMNOを上回り、新規加入の60%近くがMVNOの加入者となっている（【図表6】）。

ただし、この数字はARCEPに対しMVNOとして届出済事業者のうち、2006年4月1日時点でサービス提供7社（Coriolis、Debitel、Neuf Cegetel、NRJ Mobile、Omer Telecom、Tele2、Transatel）の加入者数のみで、各社の内訳は掲載されていない。

M6 Mobile、Universal Mobileなどは、ARCEPへの届出ではMVNO契約ではなく「ブランドライセンス契約」となっており、MNOの加入者数に含まれている。M6 MobileとUniversal Mobileの加入者数は合わせて100万近くになっており、上記7社の合計を上回っているため、ブランドライセンス契約の事業者を含めたフランスの「MVNO」加入者数はもっと多いことになる。

【図表6】フランス本国市場におけるMVNO加入者数推移

(本国市場)	2005.9	2005.12	2006.3	2006.6
MNO加入者数	44,448,100	46,179,400	46,483,100	46,667,500
MVNO加入者数	108,000	279,800	425,300	693,800
加入者数合計	44,556,100	46,459,200	46,908,400	47,361,300
MVNOシェア	0.24%	0.60%	0.91%	1.46%

(出所：ARCEP統計)

また、携帯電話事業者の中では、シェア第1位のOrange Franceの加入者数が第2四半期になって減少したことと、Bouygues Telecomが加入者数を急速に伸ばしたことが特筆される。2006年上半期では、Bouygues Telecomの純増数は33.4万で3事業者中トップとなり、SFRは21.7万の純増、Orangeの加入者数は4万減となった。Bouygues Telecomによれば、同社の好調は、2006年3月から新たに導入した料金プラン「Neo」^④（脚注）と「Exprima」が爆発的に売れたことによるもので、「Neo」の加入者数は2006年6月末に67.1万に達しているという。

📖 執筆者コメント

他の欧州諸国に比べ普及が遅れているとされるフランスの携帯電話市場であるが、MVNOの相次ぐ参入で、ユーザーに多様な選択肢が提供されるようになった。また、携帯電話事業者各社が各種の新サービスや新料金プランを開始するなど、MVNOの参入は携帯電話料金の低下と多様化にも少なからぬ影響を与えているようだ。やや停滞気味であった市場は活性化しつつあると言えるかもしれない。



④（脚注）

20時以降24時まで全事業者宛の通話料が無料となるほか、欧米への国際通話は国内通話料と同額、iモードのメールが無料となる。料金プランは、24ヵ月契約で月額39ユーロ/無料通話2時間から139ユーロ/無料通話15時間までの7種類（12ヵ月契約では43ユーロ～147ユーロ）。超過通話料0.3ユーロ/分。

フランスのMVNO
～多様な企業が次々と新規参入～

2007年1月にはモバイルナンバーポータビリティの事業者移行期間が最長10日に短縮され、また携帯電話着信料の引き下げも予定されており、MVNOにとって追い風となる。例年、欧米では12月のクリスマス商戦を含む第4四半期は加入者が増える時期であるが、MVNOがどこまで市場シェアを伸ばすか、またARCEPがMVNOに対する規制に関して最終的にどのような結論を出すのかが注目される。

📖 出典・参考文献

ARCEPホームページ (www.arcep.fr)

France Télécomホームページ (<http://www.francetelecom.com/fr/>)

SFRホームページ (www.sfr.fr)

Vivendi ホームページ (www.vivendi.com)

Bouygues Telecom ホームページ (www.bouyguetelecom.fr)

Bouygues ホームページ (www.bouygues.com/)

各MVNOのホームページ

その他各種報道資料

【執筆者プロフィール】

氏 名：服部 まや (はっとり まや)
所 属：KDDI総研 制度・政策調査室
専 門：欧米・アジアを中心とした諸外国の通信市場に関する調査研究

最近の主な研究テーマ/レポート：

欧米におけるMVNOの動向

東南アジアの通信事業環境調査

ローミング事業に関する調査研究

タイ携帯電話市場の最近の動き (KDDI総研R&A 2006年2月号)

世界のFMC動向シリーズ No.1 (英国)～BT Fusionの最近の
動向～ (KDDI総研R&A 2006年7月第1号)

France Telecom、コンバージェンスサービス提供へ向けてサービス
ブランドを「Orange」に統一 (KDDI総研R&A 2006年8月第2号)

Email : xma-hattori@kddi.com

電話 : 03-6716-1164